

ヒコキーのまち とよやま



十一月三十日(木)、あいち航空ミュージアムとMRJミュージアムがオープンしました。本町は、県営名古屋空港を中心に、両ミュージアムや神明公園・航空館boonなど航空機関連の見どころが集積する「ヒコキーのまち」です。今月号では、本町の航空機関連スポットをご紹介します。

本町と空港

本町は、面積の約三分の一を県営名古屋空港が占めています。戦時中の昭和十九年、陸軍の飛行場として開設されたのがそのはじまりでした。当時、飛行場用地内にあつた住居や田畑の半ば強制的な立ち退きや、多くの勤労動員により完成したものです。このような先人の苦勞があつて、今日の本町や空港の発展があります。

戦後、名古屋空港に改称された二年

後の昭和三十七年には、国産プロペラ旅客機の「YS-11」が初飛行に成功しました。「YS-11」は、昭和四十八年の製造終了までに試作二機、量産百八十機が製造され、世界の空で活躍しました。名古屋空港は中部圏の国際的な空の玄関としての役割を半世紀近くにわたって担いました。

平成十七年、名古屋空港は県営名古屋空港として再出発しました。旧国際線ターミナルビルは大型商業施設に変貌を遂げ、旧空港用地には国産ジェット旅客機MRJの最終組立工場が建設



されました。MRJは平成二十七年に県営名古屋空港から初飛行を成し遂げ、大きな話題となりました。航空機産業のまちとして関心の高まる中、十一月末、新たな航空機スポットとして、あいち航空ミュージアムとMRJミュージアムが本町にオープンしました。

あいち航空ミュージアム

あいち航空ミュージアムには、「YS-11」などの実機が展示されます。航空機の歴史や技術を見て、触って、感じて楽しめるコンテンツが充実しています。

▽職業体験

遊びながら空のお仕事を体験することができま

▽オリエンテーションシアター

3D大型シアターで飛行機づくりの歴史を知ることができます。

▽名機百選

日本の航空史に名を残した名機の精密模型が一堂に展示されています。

▽展望デッキ

ハンモックに寝そべり、離着陸する飛行機を間近で見ることができます。

▽開館時間

午前十時〜午後七時

▽休館日

火曜日
入館料 大人 千円、高校・大学生 八百円、小・中学生 五百円
問合せ 名古屋空港ビルディング(株)
☎ 39・0283